

総合的な学習の時間（郷土理解学習）について

1 ねらい

- ・地域の素材に対して課題を設定し、式根島の民話を演じることを通して、地域に関心を持ち、地域を創造する力を養う。
- ・全校で協力して取り組むことを通して、自主性や協調性、リーダー性を養う。
- ・劇づくりを通して、表現力を高めるとともに、想像力を養い、他者にわかりやすく発表する方法を身につける。

2 郷土理解学習の流れ

累計	内容	時期（予定）	備考
1	ガイドダンス 聞き取りについて	7月19日	夏休み宿題
2	調査分析・係・キャスト決定	9月29日	
3	台本確認・方言指導	10月4日	
4	台本確認・方言指導		
5	式根の伝統を知る	10月6日	ゲストティーチャーを依頼する
6	台本読み合わせ		
7	台本読み合わせ	10月7日	通しで
8	係会打合せ		各係ごと
9	場面分け指導	10月11日	少人数に分けて
10	場面分け指導		
11	場面分け指導	10月14日	少人数に分けて
12	場面分け指導		
13	立ち稽古	10月17日	場合に応じて少人数指導
14	立ち稽古		
15	舞台装置作成（大道具・小道具・音響・衣装・照明）	10月19日	6校時+放課後
16	舞台装置作成（大道具・小道具・音響・衣装・照明）	10月20日	
17	舞台装置作成（大道具・小道具・音響・衣装・照明）	10月21日	
18	立ち稽古	10月25日	場合に応じて少人数指導
19	立ち稽古		
20	立ち稽古	10月27日	体育館で全体
21	立ち稽古		
22	通し稽古	11月1日	小学校体育館で全体
23	通し稽古		
24	通し稽古	11月4日	小学校体育館で全体
25	通し稽古		
26	リハーサル	11月8日	小学校体育館で全体
27	リハーサル		
28	総稽古	11月10日	小学校体育館で全体
29	総稽古		
30	最終調整	11月11日 5校時	6校時前日準備

台本配布・・・9月26日（目を通して、29日までに自分のやりたい役の見通しを立てておく）

3 演目について

○ 過去4年間で作ってきた演目

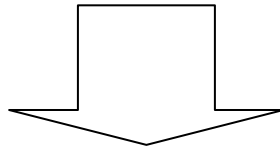
- | | | | | |
|--------|------------|---|---------|---------------------|
| 平成19年度 | 海難法師 | 、 | さしじ山の神様 | (2本上演、ともに式根島の伝説) |
| 平成20年度 | 三十六人衆とお福が猫 | | | (式根島の伝説) |
| 平成21年度 | 私たちの宝物 | | | (ノンフィクション、発電機・校舎改築) |
| 平成22年度 | 海難法師 | | | (平成19年度のリメイク) |

○ 今年度

「三十六人衆とお福が猫」をリメイクする

4 時数と夏休み・2学期上旬の動きについて

- ・1学期中に流れを説明し、演目についての確認をする。
- ・夏休み前期に(式根島についての)取材活動させ、レポートを提出させる (別紙)
- ・教員側で台本原案を作成する。
- ・「脚本分析」の段階で生徒の手で台本を修正する。→方言に書き換える。



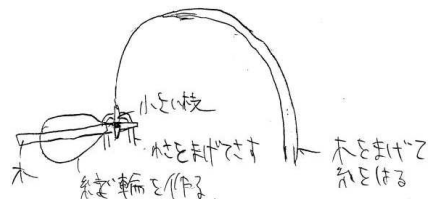
11月12日(土)の式根島保育園・小学校・中学校合同の
学芸会で「三十六人衆とお福が猫」を発表



式根島の話を集めよう！

「塩釜36人衆の話を先輩が脚本にしました。
それに、式根の話を盛り込み、今年の
学芸会では、新しい劇の脚本を作ろう。」

氏名	テーマ	内容
1年生	式根島の伝説 <small>あまり式根島の伝説を知らなかったから調べた</small>	・昔、式根島と新島が砂浜でつながっていました。人々はその砂浜で式根島と新島を渡る事ができたそうです。ですが、ある時にとても大きな地震がきたそうです。そのせいで津波が起こり、式根島と新島を結んでいた浜が無くなってしまっそうです。それで、今は式根島と新島は船でしか行く方法がなくなってしまったそうです。
2年生	罾のはぎ方 <small>前に父に聞いて興味をもったから</small>	・木のしなりをストッパーで止めておいて、重がかかるとはずれて、縄が締まるしくみです。 (実際に作ってみました)
〃	昔の遊び <small>今と昔の遊びの違いを知りたかったから</small>	・ハトややましぎ、アカッパラ (アカココ) をとった。罾を張った。それを食べた。それは、串に刺して炭火で焼いて食べていた。当時は肉があまり食べられなかったの、それが楽しみだった。 ・夏はあおとば (ベラ・ニシキベラ) を釣った。 (罾のイメージ図です)
〃	昔の遊び&漁師の知恵 <small>今とどんな違いがあるか知りたかったから</small>	・「たなか」は昔ちよつとしたゲームセンターだった。インバーダーゲームやコインを入れて遊ぶゲームが2台ずつあった。遊びは外で遊ぶか、家でゲームする (その頃にちょうどテレビゲームが出たらしい)。 ・昔 (今もあるが) は8・6算法という便利な計算があった。 ・風に背を向けて、右手を挙げた方向に台風があるという。
〃	島の漁について <small>漁がどんなものがあるか前から気になっていたから</small>	・大きいものでは100kgほどのカジキが釣れた。 ・これは新島発祥の漁の方法だが、昔はぼうけ網かサンマ取りをしていた。地引き網漁なども盛んだった。 ・昔は8艘くらいの大きい船に20人くらいで乗っていたが、エンジンなどが出てから、個人で船を持つことが多くなっていった。 ・新しい船ができた時や正月は船からミカンをまいたらしい。 ・昔はここでもサトウキビを作ったらしい。 ・式根にはコソ泥や博打をした人が流されてきた。
〃	式根の方言・式根の昔話	・36人衆は塩釜様です。 ・塩の生産の理由は、「伊豆諸島文化財総合調査報告」によると「江戸時代の産業発展」のため。



	<p>式根の方言や式根の昔話が気になったからです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年貢として、塩づくりを行うために新島には二カ所釜場がある。 ・塩の年貢は1年に総数1943俵の塩を上納した。 ・これだけの塩を作る薪の数は大変で、一昼夜煮詰めると3斗5升入り（の俵）で12俵できた。 ・塩を作るには塩煮の場所を決めるより先に、塩山を決めなければならなかった。新島の山も30年、40年で能率の悪い塩山になってしまった。そこで当時、薪のある無人島であった式根島に釜場を移動させた。それが式根島釜下での塩づくりの始まりだと言われている。寛永19年（1642年）のことである。そこで活躍したのが「釜家三十六人衆」通称「塩釜の三十六人衆」である。 ・この供養塔は今も釜下海岸で350年前の波の音が聞こえる丘の上で奉られている。 ・女房のお福は、新島の出川次郎兵衛家を出て、式根島で飼っていた三毛猫を置いたまま新島へ引き上げた。その後、この猫は無人島の式根島で悪さをして役の行者は大王神社に封じ込めた。 ・方言は地域によって異なった言語。その地域で生活している人同士は頻繁に使う。 「やーい（おーい）」「いしら（君たち）」「いし（君）」「いしゃー（あなた）」 「いんじい（おじいさん）」「いんじいら（おじいさんたち）」 「うんばあ（おばあさん）」「うんばあら（おばあさんたち）」 「おい（わたし）」「おら（わたしたち）」（「ら」がつくと複数形になる）
<p>〃</p>	<p>伝説的な名人の話と漁師の知恵</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モロコのもきさん（茂吉さん） 茂吉さんという人がいます。1年生の生徒のおじいさんです。若い頃、漁師をしていて、一人で船に乗って一本釣りをしていたそうです。ある日、沢山で特に大きなモロコ（魚）を釣り、持って帰ったらみんな驚いたそうです。 ・漁に出られない日には自分で竹をさいて、編棒を作って、毛糸で暖かいセーターなどを編んでいた人もいたそうです。
<p>3年生</p>	<p>知恵 楽しそうだったから</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・胸焼けにはふじの花の一種のほぞのつるの部分に首に巻くとすぐ治る。これはにおいが強いので、島では「くそふじ」と呼んでいる。根拠はない。 ・軽子（かるこう） 米などを船から荷揚げして各商店に担いだりして配った。（今の宅配みたいなものである）。賃金は良かったらしい。今では足腰が悪くなっているのはそのせいだと言っている。
<p>〃</p>	<p>お年寄りの知恵 たくさんの知恵を知りたかったため</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き出しが動きにくくなったものはろうそくをぬると良い。 ・スイカの熟れたの見分ける方法は、実とツルの所に生えている毛が抜けていると熟れている証拠。 ・カボチャは湿った土に蒔いて、温かくしておくと芽が出る。 ・げんべいのおじいさんは「マハタ」を釣らせたら名人だったそうだ。 ・月と雲と風の方向で明日の天気分かる。
<p>〃</p>	<p>高森灯台を作った宮川タンさんの話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宮川タンさんは、とにかく自分のことよりも人のため、村のために働く人でした。台風が来ても、家を守るために式根のあちこちに松を植え、漁師が海で遭難しないように毎日毎日、石を運んで高森灯台を作り、航海の道標となって漁師達は迷うことなく漁から帰ってこれるようになりました。 ・ちなみにタンさんは僕の先祖になるのですが、僕の祖父がよくタンさんの手伝いをしていました。
<p>〃</p>	<p>昔話 なんとなく気になったから</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黒鳥さま 千代屋の前の鳥居のところ。カラスの神様らしい。今では「山の神様」と呼ばれている。 ・井戸の神様 奥山の前のほこら。昔はこの井戸が使われていた。（ここにあった）今はふたをしてあるが、いざとなれば使えるらしい。 ・キシボウズ（？） 昔、式根で小人を見た人がいたらしい。（多数の人が見た）